

あなたが、気になる「質問」はありますか？

質問議員10名 質問15項目



皆さんの「むら」にかかわることを、議員が質問をしました。

| その他の町行政 | 公共施設管理・整備 | 安心・安全 | | | | | | | | | | 産業・観光・まちの魅力 | 子育て支援・教育 | | | |
|---------|-----------|-----------------------|------------------|--------------------|---------------------------|------------------|-----------|-----------|--------------|---------------|-------------|----------------------|--------------------|----------------|-------------------|------|
| | | P12 | P11 | P10 | P9 | P8 | P7 | P6 | P5 | | | | | | | |
| | | 『歴史的災害』本年度予算の見直しが必要では | 災害後の東公民館、建て替え構想は | 7月豪雨災害における要配慮者の支援は | 7月豪雨災害における消防団活動、行政間の協力体制は | 防災行政無線等の情報発信の計画は | 災害の復興計画は | 防災教育の充実を | 被災者優先の避難所運営を | 決壊した護岸の早急な修繕を | 早急な砂防ダムの建設を | 今回の災害を受け町民の安全・安心の確保を | 災害復旧に関連する町民の安全・安心を | 観光交流拠点整備構想、続行か | 猛暑の中での教育施設の熱中症対策は | |
| | | 諏訪本議員 | 立花議員 | 片川議員 | 尺田議員 | 民法議員 | 竹爪議員 | 大瀬戸議員 | 沖田議員 | 沖田議員 | 時光議員 | 時光議員 | 藤本議員 | 藤本議員 | 立花議員 | 片川議員 |

※ 紙面の関係により、質疑の一部のみを掲載させていただいています。また、分かりやすい紙面にするために、趣旨が変わらない程度の編集を行っています。なお、熊野町議会のホームページ (<http://www.town.kumano.hiroshima.jp>) から、一般質問の全ての内容を視聴することができます。

子育て支援 教育

Q 猛暑の中での教育施設の熱中症対策は

A 〈教育長〉

平成31年度に空調設備の整備事業が採択されるよう国に交付金申請を行っており、前倒しによる採択の可能性も視野に、早期整備に努める。



片川 学 議員

〔Q1〕 年々悪化する猛暑の中、教育施設、教育環境の熱中症対策は急務と考えるが。

〔A1〕 現在、扇風機での対策のみで不十分。各校、体育・その他の授業中においても、適宜水分補給し、熱中症予防に努めている。

〔Q2〕 「学校施設及び体育施設への空調設備促進を求める決議」を平成29年9月に発議し議決したが、今年度事業の施行計画説明において、この事業だけ未定との事。子ども達の劣悪な環境を把握できていない。エアコン整備の目標時期は。

〔A2〕 今年度、実施設計予算を確保した。7月に実施設計業務委託契約を実施、12月に完了予定である。今後、国の

交付金の早期確保に努め、事業採択されれば平成31年度に工事を進める。現段階では全校のエアコン設置完了は10月上旬を見込む。

〔Q3〕 社会体育施設は避難所でもある。町民の健康増進・健康保健面等においても、良好な環境であるべきだが。

〔A3〕 現在、体育館の構造は冷暖房設置の前提ではない。新たな設置には多額の費用がかかる。

〔Q4〕 猛暑時の運動会・体育祭等の関連行事の実施時期変更を検討すべきではないか。

〔A4〕 秋のすがすがしい時期に実施していたが、ご指摘のとおり猛暑が続く状況下である。校長会等と検討する。

産業 観光 まちの魅力

Q 観光交流拠点整備構想、続行か

A 〈町長〉

このたびの災害で作業に遅れが生じ、全体のスケジュールにも遅れが出るものと考えているが、事業そのものは継続して実施する。



立花 慶三 議員

〔Q1〕 7月豪雨災害によって筆の里工房周辺も多大な被害を負った。今後、整備方針の変更があるのか。発災後、町全体に居住不安がささやかれるなかで、観光に重点を置いた定住人口増加策をそのまま続行するのか。そのまま続行するのであれば、その根拠を示してほしい。

〔A1〕 土石流は駐車場のほか、一部は熊野北農道を越え、筆の里工房の建物敷地まで達した。整備事業は、既に国の採択を受けて測量業務に着手しているが、計画全体のスケジュールについては見直しが必要となる。砂防施設の設置等を県に要望し、国とも相談しながら整備計画を再構築する。迅速に災害復旧を進め、加えてハード・ソ

フト両面での防災・減災対策を充実させることにより、不安の早期解消に努める。定住先の条件として自然災害への備えや共助体制の整ったコミュニティの存在といったことが一層重視されるものと思う。また、子育て支援や教育の充実、産業振興、観光交流の推進などの施策を堅実に執行うことで、総合的に評価をいただける、魅力的なまちづくりを進めていく。



▲ 7月豪雨災害を受けた筆の里工房周辺